

参議院総務委員会 NHK視察報告

平成 26 年 5 月 13 日

参議院総務委員会

去る 4 月 22 日に当委員会が行いました視察につきまして、その概要を御報告申し上げます。

観察委員は、山本香苗委員長、二之湯智理事、丸川珠代理事、若松謙維理事、渡辺美知太郎理事、井原巧委員、石井正弘委員、島田三郎委員、柘植芳文委員、堂故茂委員、石上俊雄委員、江崎孝委員、林久美子委員、藤末健三委員、吉良よし子委員、寺田典城委員、又市征治委員、主濱了委員及び私、吉川沙織の 19 名であり、東京都渋谷区の NHK 放送センターにおいて、日本放送協会の事業運営に関する実情調査を行いました。

NHK におきましては、本年一月の新会長就任以降、役員の言動等により、国民・視聴者から厳しい批判が多数寄せられるなど、信頼が揺らいでいることに鑑み、その信頼回復に向けての取組状況等について、経営委員長や会長をはじめとする役員の皆様と忌憚のない意見交換を行うとともに、老朽化が進み、建替えが検討されている NHK 放送センターの現状等について、調査を行いました。

視察に当たりましては、番組送出室、8 K スーパーハイビジョン、大河収録ドラマスタジオ及び国際放送スタジオを拝見いたしました。

まず、番組送出室は、国内で放送する七波の番組を 24 時間途切らすことなく、全国に向けて送り出している NHK の心臓部であり、セキュリティが最も強化された場所の一つである旨の説明を受けるとともに、放送を継続しつつ設備更新を行った結果、床下にケーブルが幾重にも敷設されている状況等を拝見しました。

次に、8 K スーパーハイビジョンは、2020 年の本放送開始を目指して、開発に取り組んでおられ、現行ハイビジョンの 16 倍の画素数を持つ超高精細映像を実現する技術は、医療など放送以外の分野への応用も期待されています、今回は、実際に 8 K スーパーハイビジョンの映像と音響を体験しました。

また、大河ドラマ収録スタジオは、昭和 40 年竣工の最も古い建物にあるスタジオであり、視察時には、大河ドラマ撮影中でしたが、手狭な印象を受けました。

最後に、国際放送スタジオは、テレビ国際放送の英語ニュース等を行うスタジオであ

り、事務スペースを改装したため、遮音等も十分でなく、放送に支障が生じる場合があること、約300名のスタッフ中、50名弱の外国人があり、緊急報道時の英語での報道等に対応できる人材の育成が課題であること等の説明がありました。

その後、浜田経営委員会委員長、上村経営委員会委員・委員長職務代行者、上田経営委員会委員・監査委員、糸井会長、堂元副会長及び関係理事と意見交換を行いました。

視察委員からは、新放送センターの建設候補地・建設時期や放送債券の発行等の資金計画の見通し、大河ドラマの題材の選定プロセス、外国籍職員の採用状況と今後の採用方針、NHKワールドTVのアジアへの特化とマルチコンテンツ対応の必要性、8Kスーパーハイビジョン後の放送技術の展望と今後の2K放送の取扱い、海外への魅力ある放送番組展開のための現地化の必要性、NHK職員の削減と番組制作の在り方、番組送出室のスタッフ構成、佐賀放送局で行われた視聴者のみなさまと語る会の概要、放送文化を守る上でNHKが果たす役割、理事の任命同意に係る経営委員会を控えた会長の考え方、会長が理事全員から預かった日付が空欄の辞表の返納意思、番組での会長による謝罪発言後の国民からの意見の状況、女性の登用の必要性等について意見が交わされました。

以上が調査の概要であります。

最後に、今回の調査に当たり、御協力を頂きました関係各位に対し、厚く御礼を申し上げ、報告を終わります。